

ディルタイの精神科学から見た知識習得と授業展開 に関する研究

森, 邦昭

<https://doi.org/10.15017/1500439>

出版情報：九州大学, 2014, 博士（教育学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏 名	森 邦昭			
論 文 名	ディルタイの精神科学から見た知識習得と授業展開に関する研究			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	新谷恭明
	副 査	九州大学	教授	田上哲
	副 査	九州大学	准教授	藤田雄飛
	副 査	九州大学	理事	丸野俊一

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は教育哲学による授業研究において、ディルタイの精神科学の考え方に着目し、ディルタイ的思考から教授者対学習者という従来の視点を越え、「人間の生」そのものを解明する議論を展開し、学習者の覚知のメカニズムを哲学的に解明することを提起した。まずはディルタイの精神科学における認識論的論理学の存在を解明し、ディルタイの人間の認識・覚知の理論を授業研究の基本的考えとして措定し、精神科学から見て知識の習得が人間の生と同一事象であることを明らかにすることで、学習の構造を解明した。学習における実存的姿勢の観点から学習することについて哲学的考察を深め、人間が生（実在的範疇）を通り抜ける仕方（分節化）として見る見方を導き出したことは大きな成果であった。このようなディルタイの精神科学から見た学習理論を以て現実の授業の場における展開のあり方について考察を深め、殊に道徳の授業展開を中心に理論を深化させている。そして初等教育の授業から大学での対話的講義に至るまでの幅の中で具体的な議論へと発展させているところに本研究の特徴がある。本論文は授業研究をディルタイの精神科学を中心に置いた斬新な視点から見直し、新たな知見を加えた点において教育哲学界に多大な貢献を果たしたと共に、教育哲学が現場として存在する授業研究に対して有効な知見を加えたこともまた極めて大きな貢献であった。

よって本論文は博士（教育学）の学位に値するものと認める。